

リオの伝説スピーチ

こんにちは、セヴァン・スズキです。こども環境活動を代表してお話しします。カナダの12歳から13歳の子どもたちの集まりで、今の世界を変えるためにがんばっています。大人みなさんに大切なお願いをするため、自分たちでお金をためて、カナダからブラジルまでやって来ました。今日の私の話には、ウラもオモテもありません。私たちの未来をかけてお話しています。未来を失うことは、選挙で負けたり、株で損したりすることとは違うのです。私がここに立って話をしているのは、未来に生きる子どもたちのため。世界中で飢えに苦しむ子どもたちのため。今にも死に絶えようとしている無数の動物たちのためです。

太陽に当たるのが、私はこわい。オゾン層に穴があいたから。息をすることさえこわい。空気にどんな毒が入っているかもしれないから。父とよくバンクーバーで釣りをしたものです。数年前、体中ガンの魚を目にするまで。そして今、動物や植物たちが毎日のように絶滅していくのを、私たちは耳にします。

私たちには、夢があります。野生の動物や、たくさんの鳥やチョウが舞うジャングルを見ることがです。でも、私の子どもたちの世代は、もうそんな夢さえもてないのではないのでしょうか？みなさんは、私ぐらいの子供の時、そんなことを心配したことがありますか。こんな大変なことが、ものすごいいきおいで起きているのに、私たち人間は、相変わらず、のんきな顔をしています。私はまだ子どもで、この危機を救うのにどうしたらいいかわかりません。でも、誰もよい解決方法なんて持っていないのです。

オゾン層にあいた穴をどうやってふさぐのか、あなたは知らないでしょう。死んだ川にどうやってサケを呼びもどすのか。絶滅した動物をどうやって生き返らせるのか、砂漠にどうやって森をよみがえらせるのか、あなたは知らないでしょう。どうやって直すのかわからないものを、こわしつづけるのはもうやめてください。

ここにいる人たちは、政府や企業の代表でしょう。テレビや新聞の人かもしれない。みなさんは、誰かの母親であり、父親です。兄弟姉妹もいるでしょう。私たちのだれもが、だれかの子どもなんです。私はまだ子どもですが、この地球が、50億以上の人間と、3千万種の生物からなる大家族であることを知っています。どんな国境や法律も、この事実を変えることはできません。私は子どもですが、みんなが大家族の一員として、行動しなければならぬことを知っています。

私は怒っています。でも、自分を見失ってはいません。私は怖い。でも、自分の気持ちを世界中に伝えることを、私は恐れません。私の国でのむだ使いはたいへんなものです。買っては捨て、また買っては捨て…。北の国々は使うばかりで、南の国々と分かちあおうとはし

ません。自分の富を、ほんの少しでも手ばなすのがこわいのです。

カナダの私たちはめぐまれた生活をしています。時計、自転車、コンピューター、テレビ、家にあるものすべてを数えたら、何日もかかることでしょう。2日前、路上で暮らす子供たちに出会い、ショックを受けました。ひとりの子どもが私たちにこう言いました。

「もし、ぼくが金持ちだったら、家のない子すべてに、食べ物と、衣服と、薬と、住まいと、やさしさと愛情をあげるのに。」

何も持たないひとりの子どもが、分かちあうことを考えているのに、すべてを持つ私たちは、どうしてこんなにも欲深いのでしょうか。彼らが私と同じぐらいの年だということが、私の頭から離れません。どこに生まれたかによって、人生がまるっきり違ってしまふ。私がストリートチルドレンの一人だったかもしれないんです。ソマリアで飢えに苦しんでいたたり、中東の戦争で犠牲になったり、インドでも物ごいをしてたかもしれない。

もし戦争のために使われるお金を、貧しさと環境問題のために使えば、この地球はすばらしい星になるでしょう。私はまだ子どもですが、このことを知っています。

学校や幼稚園で、大人は私たちに、世の中のルールを教えてください。

- * 争いをしないこと
- * 話し合いで解決すること
- * 人を敬うこと
- * 自分のゴミは自分で片づけること
- * 傷つけないこと
- * 分かちあうこと
- * 欲ばらないこと

ならばなぜ、大人たちは、私たちに「するな」ということをしているのですか。みなさんが誰のために話し合っているのか、思い出してください。未来の世代、つまり私たちのためです。このような会議で決まったことが、私たちの未来を左右するのです。

親たちはよく子どもをこう言って励まします。「大丈夫。きつとうまくいく。」「できるだけのはしてるから」けれど、今の地球の状況に、こんな言葉は使えないはずで。

私たち子どもの未来を本当に真剣に考えていますか。父は私に「何を言うかではなく、何をするかが大事」と教えます。大人がやっていることのせいで、私たちは泣いています。大人は、いつも私たちを「愛している」といいます。もしそのことが本当なら、どうか、行動で示してください。

ありがとうございました。